
通 信

European College of Sport Science 18th に参加して

2013 : Participated in the 18th annual Congress of the European College of Sport Science.

山田 健二

Kenji YAMADA

European College of Sport Science (ECSS) の概要

European College of Sport Science (ECSS) は、ヨーロッパを中心とした体育・スポーツ科学全体の研究成果を発表する場であり、世界各国からスポーツ科学の研究者が集まる。

1996年に第一回学会大会が開催されてから毎年開催されており、2013年6月26～29日の期間において European College of Sport Science (ECSS) 18thがスペインのバルセロナで行われた。1992年に行われたバルセロナオリンピックの競技会場が並ぶモンジュイックの丘に位置する The National Institute of Physical Education of Catalonia (INEFC) が会場であった。今回の学会では、3000人以上の参加者があり、発表演題も約2500と大きな規模であった。4日間の大会内容は、シンポジウムや一般発表(Oral, Mini-Oral)をはじめ、特別招待講演などが行われ、中身の濃いプログラムが組まれた。

発表について

本学会における一般発表では、OralとMini-oralと呼ばれる二つの形式のどちらかでの発表で

あった。Oralでは、通常の口頭発表であり、スクリーンにスライドを映しながら行うものであり、465題の発表が行われた。また、Mini-Oralでは、横140cm×縦79cmの画面に映し出されたあらかじめ作成しておいたE-posterと呼ばれるスライドをもとに、2分で発表し2分で質疑応答を行うという形式の発表であり、1228題の発表が行われた。さらに、E-poster not-debatedという発表のないポスター形式のものもあり、454題の発表が行われた。これは、Mini-Oralと同様のE-posterを専用のスクリーンに参加者が見たいものを選んで映し出していく形式であった。

本大会と一緒に参加された須藤明治教授が、6月27日のセッションで、「The effects of float-equipped aqua training swimwear on water jogging」について、Mini-Oralでの発表を行った。これまでのECSSでも何度も発表されていることもあり、Mini-Oralという慣れない発表形式にも関わらず、とても堂々と発表されていた。私は、翌日の28日のセッションで、Mini-Oralでの発表であり、「Relationship between running velocity and subjective sensation (疾走速度と主観的感覚との関係)」について報告した。初めての海外における英語での発表と質疑応答は非常に難しく、担当されていた座長からの質問に対して、自

分の考えをなんとか伝えようと懸命に身振りを加えながら話した。質疑応答が2分という短い時間にもかかわらず非常に長く感じたが、無事に終わることができ安堵と達成感を味わえた。その一方で、もう少し流暢な質疑応答ができればよかったという悔しい気持ちにもなった。Mini-Oralでは短い時間の中で、参加者が時間ギリギリまで活発な議論しており、非常に良い研究発表が行われたと感じた。

ECSSを終えて

初めての海外発表という経験を通して、これまでの国内の発表では味わうことのできない多くのことを学ぶことができた。世界の多くの研究や議論に触れることも重要であると感じたが、参加者

へどのようにすれば内容が伝わるのか、また、他の発表者はどのように工夫して伝えようとしているのかという点について改めて考えさせられた学会であった。これまでの学会発表では、「発表する」というイメージが強かったが、本学会で言葉の壁を感じたことで、いかにして「伝える」や「理解してもらう」という次のステップへと進むことが必要であると感じた。8月に京都で行われた日本体育学会や9月に東京で行われた日本体力医学会においては、この「伝える」ということを考えながら発表ができるように心掛けたことで、多くの先生方と積極的な質疑応答ができた。本大会における発表は、学会発表の基礎を考えさせられたとても意義のあった経験がであった。今後、より多くの大学院生が海外の学会への参加を積極的に行い、貴重な経験をしてほしいと感じた。



学会会場



須藤明治教授の発表風景



筆者の発表風景



サクラダ・ファミリア